



# 学校だより

6月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

## 学校の植物に思いを寄せて ～この春感じたこと～

教務主任 松尾 未央

朝の光に照らされる通用門を通ると、足元にたんぽぽがあります。2年生の国語の教科書に掲載されている「たんぽぽのちえ」の通り、黄色い花を咲かせていたり、ぐうんと背を伸ばして綿毛を飛ばす準備をしていたりします。毎日見ていると日によってその様子が違ったり、一日の中でも様子を変えたりしています。知恵を働かせて、懸命に成長している姿や生命力は、私たち人間にも重なり、元気をもらいます。

職員玄関の近くには、創立30周年の記念に学校医の先生からいただいた2本の「カイノキ」があります。この木は、栽培・飼育委員会担当の私に関わってきた、思い入れのある木です。いただいたばかりの頃は小さくて、失礼ながらただの棒切れが土に刺さっているように見えました。本当にこの木が成長していくのか心配していたのですが、春になると小さな枝を伸ばし、小さな葉を付け始めました。そして、それぞれの葉が日の光を存分に浴びられるように、枝や葉を一生懸命伸ばして成長していきました。この時の木の姿は、昨年度の学校再開後、毎日頑張っている子どもたちの姿と重なって、木を見る度に元気づけられたことを思い出します。秋には、小さな葉が赤くなり、冬には枝が全部落ちてまた棒状になりました。この状態はやはり心配になりますが、寒い時期をじっと耐えた木は、再び枝を伸ばし、葉を付け、成長していくのです。今年の姿もまた、子どもたちと重なっています。ちなみに、「カイノキ=楷の木」は、直角に枝分かれすることや小葉がきれいに揃っていることから、「楷書」にちなんで名前が付けられたそうです。また、「学問の木」とも言われています。今はまだまだ、若い小さな木ですが、今年度中に行われる植栽エリアの工事に伴って植え替えられ、さらに大きく成長していくことと思います。

他にも、職員玄関から北昇降口が続く通路には、子どもたちが大切に育てている野菜や、地域の方々からいただいたたくさんの花が置かれ、癒しや元気を与えてくれています。西小と東小、両校それぞれにいただいたスイートピーは、地域の方が長年種を取りながら大切に育てている花とのことですが、本校でも苗から種を取るまでに育てることができました。いただいた色とりどりの花の苗は、栽培・飼育委員会の子もたちや、植物に詳しい技術員さんがプランターに植え替えたり、水やりをしたりして大切に育てています。地域の方々の学校に対する温かいお気持ちや植物を慈しむ素敵な姿を、植物を見る度に感じます。

アリーナの建設が進む、校庭にあった大きなクスやケヤキの木は、長年地域の方々や子どもたちに愛されてきましたが、今はその役割を終え、姿を消しています。また、正門付近にあった、個人的に好きだった沈丁花の木も、残念ながらなくなりました。義務教育学校開設に向かって外観は変わっていますが、子どもたちが躍動する姿、元気な声や笑顔があふれる学校は変わっていません。これからも、子どもたち一人ひとりが大きく輝く姿、成長し続ける姿を実現できるよう、植物に例えるならば、学校が大きな土壌となり、子どもたち同士、そして職員が、互いに太陽になり、水になり、肥料になりながら教育活動を行っていきたくと考えています。各ご家庭、地域の皆様へのあたたかいご支援を、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

